

| 文献 | 対象 | デザイン・介入 | 評価項目 | 脱落例数 | 結果 | 有害事象 | エビデンスレベル | 備考 |
|--|---|--|--|------------------------------|--|---|-----------|---|
| ① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国) | ① 総数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ | ① RCT or 非RCT(対象群 10 例以上、比較群 10 例以上、計 20 例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法(薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間(導入期間+試験期間) | ① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム | 可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載 | 報告者の結論をそのまま記載 | 可及的に詳細を記載(結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は“不明”と記載 | 評価法の見方を参照 | ① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法 |
| ① 鈴木五男、厚生科学研究補助金分担研究報告書。 ② 2000 ③ 文献(1) ④ 日本 | ① 33名。 ② 7歳~14歳 ③ 重症度記載なし。 ④ - | ① 非RCT ② パラレル、 ③ 前向き、 ④ 1群18例、2群15例 ⑤ 1群：前半にシジュウム含有塗布剤、後半に非含有塗布剤、 2群：前半にシジュウム非含有剤、後半に含有剤 ⑥ - ⑦ 14週 | ① 臨床効果(睡眠、かゆみなど)、 ② 皮膚スコア ③ 血清ECP値、ヒスタミン遊離試験、血清NO値、 ④ 血清 RANTES,eotaxin | 5名：詳細不明 | 1. 2群ともにシジュウム塗布群で臨床効果(湿潤・びらん、乾燥、痒み)、 皮膚所見の有意な改善を認めた。 血清ECP、NO値、RANTES、eotaxinはシジュウム剤使用群で投与前後で有意に低下した。 血清IL-8は使用・非使用群間で有意差は認めなかった。 | 記載なし | 3 | ① ITT記載なし ② ランダム化の方法の記載なし ③ 盲検化記載なし ④ 併用療法不明 |
| ① 塚本克彦、ほか、 ② 西日本皮膚 ③ 文献(2) ④ 日本 | ① 31例。 ② 男平均16.5歳、女平均19.0歳、 ③ 軽症から中等症。 ④ 4週間 | ① 非RCT、 ② パラレル、③ 前向き、④ ユーカリエキス配合入浴剤、非配合入浴剤。 ⑤ ⑥ ⑦ 4週間 | ① 皮膚症状 ② 皮膚コンダクタンス、 ③ 全般改善度 | なし | ① ユーカリエキス配合、非配合入浴剤群で各々試験前に比べて皮膚症状(掻痒、紅斑、落屑)、皮膚コンダクタンスに関して有意な改善。 ② 両群間では有意差なし | なし | 2 | ① ITT(-) ② なし ③ 盲検化なし ④ 併用療法：記載なし |
| ① 江川ら。明治鍼灸医学。 ② 2004, 33: 35-49 ③ 文献3 ④ 日本 | ① 28例。 ② 不明 ③ 不明 ④ - | ① 対照群のない研究 ② -, ③ -, ④ - ⑤ 鍼刺激、週に2日~10日に1回 ⑥ -, ⑦ 22日~3年1ヶ月 | ① 皮疹(紅斑・苔癬化・丘疹・痒疹・ 結節・鱗屑・か皮・水疱・びらん・潰瘍・ そう破痕・色素沈着) ② VAS 好酸球数 IgE | なし | 皮膚所見は著明改善28.9%, 改善48.9%, 不変22.2%。 そう痒感の強さは有意に改善(p<0.0001)。 好酸球数の有意な変化はなかった。 | 記載なし | 4 | ① ITT(-) ② ランダム化(-) ③ 盲検化なし ④ 併用療法：28例で薬物治療(ステロイド外用・内服)の経験あり (併用治療の詳細不明) |
| ① 今井ら。小児科。 ② 2004, 45 (5), 928-933 ③ 文献4 ④ 日本 | ① 21例。 ② 幼児~中学生 ③ 中等症~重症(各群の数不明) ④ - | ① 対照群のない研究 ② -, ③ -, ④ - ⑤ ドルフィン療法 イルカとのふれあい、2回/日 ⑥ -, ⑦ 22日~3年1ヶ月 | ① 皮膚症状 ② 血液検査 心理テスト アンケート | 不明 | 皮膚症状の改善(丘疹、紅斑、 | 記載なし | 4 | ① ITT(-) ② ランダム化(-) ③ 盲検化なし ④ 併用療法：薬物内服、軟膏治療は継続 おなじ哺乳動物動物であり、一緒に遊び共感を生むことで精神心理効果がある。 |
| ① 松中ら。皮膚の科学 ② 2004, 3(1), 73-83 ③ 文献5 ④ 日本 | ① 44例。 ② 平均27才 ③ - ④ アトピー性皮膚炎27例 既往のある患者17例 | ① 非RCT。皮膚状態の変化観察のため左右対照比較。 ② 同時対照, ③ 後向き ④ 乾燥所見として軽微19, 軽度25, なし0。 紅斑所見として軽微11, 軽度9, なし24。 ⑤ 原則として1日2回、適量塗布。 2ヶ月間継続。 | ① 乾燥、落屑、 そう破痕、紅斑、 肥厚、苔癬 ② 皮表PH 角層水分量 セラミド 角層外層中IL-1a、IL-1ra量 POMS検査 | なし | 乾燥とそう破痕で終了時のスコアが減少し、改善効果が顕著。 皮表pHに関して洗浄開始時と終了時の変化量は、洗浄前ならびに洗浄1時間後ともにアトピー群の本試験塗布群で有意な低下を示した。 | 7例でしみる感じ。継続使用可能。 | 2b | ① ITT(-) ② ランダム化の方法(-) ③ 盲検化なし ④ 併用療法：試験前よりの化粧品は継続使用。 併用した薬剤はケースカードに記載(詳細不明)。 開始2週間前より両側前腕内側の洗浄にノブソープDを使用。 |
| ① 久保田ら。日本医師会雑誌 ② 2004, 132(9), 1119-1121 ③ 6 ④ 日本 | ① 13例。 ② 12~80才 ③ - ④ 乾癬24例 | ① 対照群のない研究 ② -, ③ -, ④ - ⑤ 1日2回温泉(42°10分) ⑥ -, ⑦ 平均72日(13~228日) | ① 皮膚症状(改善、不変、悪化) ② 血清LDH 好酸球数 | なし | 皮膚症状は81%で改善、そのうち73%はかゆみも改善。 不変は19%。皮膚症状悪化はなかった。 | 記載なし | 4 | ① ITT(-) ② ランダム化(-) ③ 盲検化なし ④ 併用療法：原則としてワセリンなどの保湿剤。 抗アレルギー・抗ヒスタミン薬を使用しない。 開始前にすべての症例でステロイド外用薬は止めていた。 機序としてブドウ球菌に対する殺菌作用が考えられる。 水素、マンガ、ヨウ素より作成した人工草津温泉水で同様の殺菌作用を示す。 |

| 文献 | 対象 | デザイン・介入 | 評価項目 | 脱落例数 | 結果 | 有害事象 | エビデンスレベル | 備考 |
|---|--|---|---|--------------------------------|--|--|-----------|--|
| ① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国) | ① 総数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ | ① RCT or 非RCT (対象群 10 例以上、比較群 10 例以上、計 20 例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照 (parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法 (薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容 (プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間 (導入期間+試験期間) | ① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム | 可及的に詳細を記載 わからない場合は "不明" と記載 | 報告者の結論をそのまま記載 | 可及的に詳細を記載 (結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は "不明" と記載 | 評価法の見方を参照 | ① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法 |
| ① Schachner, Pharmacology and therapeutics ② 1998 ③ No3 ④ USA | ① 20名 ② 2歳から8歳 ③ SCORAD, sIgE, cytokine | ① 非RCT ② パラレル ③ 前向き ④ 半数ずつ ⑤ ⑥ 標準治療群、マッサージ併用群、⑦ 1ヶ月 | ① 両親の STAI、 ② 患児の顔面の表情の変化、行動性、臨床症状 | 脱落 15例 | 患者の STAI はマッサージ群で有意に減少した。臨床症状の改善 | なし | 3 | ① ITT解析なし、 ② なし、 ③ なし、 ④ 記載なし |
| ① Ferreira ③ 1998, Skin Research and Technology ③ No4 ④ Portugal | ① 23名、 ② 3歳から15歳、 ③ 重症度記載なし | ① RCT、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ④ GLA含有群 (8-9%、24%、35-40%の3群)、非含有群の4群、 ⑤ ⑥ ⑦ 12週間 | ① 皮膚症状、 ② 掻痒 | 2名が脱落。 詳細不明。 | 4群でいずれも治療前後で乾燥、掻痒は軽度改善したが、4群間での有意差はなかった。 経表皮水分喪失量に関しては、いずれも前後で改善し、GLA群はコントロール群に比べて有意に改善した。 | | | ② なし ③ なし ④ 記載なし |
| ① Anstey ② 1990, Journal of Dermatological treatment ③ No5 ④ UK | ① 12例 ② 4から46歳 ③ 重症度記載なし ④ 2週間 | ① 非RCT 左右比較試験 ② パラレル ③ 前向き ④ 夜桜油クリーム群、非含有群、 ⑤ ⑦ 2週間 | ① 皮疹重傷度スコア | 記載なし | EPO群で皮膚症状は改善した。 | 記載なし | 2 | ① ITTあり ② ランダム化有り ③ 盲検化の評価記載なし ④ 記載なし |
| ① Rosenfeldt V ② 2003 ③ No17 ④ Denmark | ① 43例 ② 平均5.2歳、1~13歳 ③ SCORAD, sIgE, cytokine | ① RCT ② 対照群あり ③ 前向き、クロスオーバー ④ プラセボから実薬(Lactobacillus)に移行 (20例)、実薬からプラセボに移行 (23例) | 0, 6, 12, 18週で SCORAD, sIgE, sECP, cytokine (実薬6週間) | 脱落 15例 | 実薬で皮疹が改善した群で、SCORAD変化は実薬群とプラセボ群で有意に差を認めた。実薬群とプラセボ群で血清 ECP値が有意差。 | なし | 2 | ① ITTなし ② ランダム化 ③ 盲検化 ④ ステロイド外用を継続。 |
| ① Brouwer ML ② 2005 ③ No18 ④ Netherland | ① 53例 ② 生後5ヶ月以下 ③ SCORAD, IgE, 好酸球数 | ① RCT ② 対照群あり ③ 前向き ④ Lactobacillus (計 33名)、プラセボ17名 ⑤ Lactobacillus, プラセボの Nutrilon | 3ヶ月後に SCORAD、血液検査値 (1, 2, 3ヶ月後に ACORAD) | 脱落 3例 | probioticsとプラセボ群で SCORAD, cytokineに有意差を認めない。 | なし | 2 | ① ITTなし ② ランダム化 ③ 盲検化 ④ 保湿薬、必要ならステロイド外用薬を使用 |
| ① Passeron T ② 2005 ③ No19 ④ France | ① 48例 ② 2歳から12歳 ③ SCORAD、外用使用量 ④ prebiotic 群の治療前 SCORAD 39.3であり、synbiotics群(Lactobacillus rhamnosusとprebiotics併用)の治療前SCORAD 39.1。 | ① RCT ② 対照群あり ③ 前向き ④ 治療群 24例、対照群 24例 ⑤ Lactobacillus rhamnosusとprebioticの併用群 ⑥ 対照はprebiotics単独群 | 1, 2, 3ヶ月後に SCORAD | 脱落 9例 (併用群7例、単独群2例) | 3ヶ月後に併用群では単独群と比較して有意なSCORADの改善の差や、外用量の有意な相違は認めなかった。 併用群(synbiotics)群で、治療前後でSCORAD値は、ともに有意な減少を認めた。(39.1より34.0) | なし | 2 | ① ITTなし ② ランダム化 ③ 盲検化 ④ ステロイド外用、カルシニューリン阻害薬、保湿薬 |
| ① Klovekorn W, et al ② 2007 ③ No21 ④ Germany | ① 87例 ② 18から65歳 ③ 中等症64名、軽度23名。 ④ ITT population: ベースラインスコア7.2。 | ① RCT ② 左右比較。 ③ 前向き ④ 左右比較、⑤ Herbal ointment (Mahonia aquifolium, Viola tricolor Centra asiatica を含有)。皮疹部に1日2回外用、4週間。 ⑥ DAC formulation (vehicke)。 ⑦ 投与期間4週間。 | ① 皮疹の変化 (スコア評価) ② かゆみ VAS(10段階評価) | 1例 | verum群(87名)はvehicle群(87名)に比較し全般改善度で改善傾向が大きかったが有意差は認めなかった。 個々の皮疹スコア、かゆみスコアは両者で有意差を認めなかった。 | 記載なし | 2 | ① ITTあり ② ランダム化有り ③ 盲検化の評価記載なし ④ 記載なし |

| | |
|----|--|
| 1 | 徳島明美ほか。民間療法で重症栄養障害をきたしたアトピー性皮膚炎の1例。鳥取医誌。17: 91, 1989 |
| 2 | 西美和ほか。食事制限により成長障害を呈したアトピー性皮膚炎の13例。日小児学会誌。94: 1292, 1990 |
| 3 | 鳥井信子、ほか。漢方薬（ハーブ）アローゼンによる薬疹の一例。臨床皮膚科。47: 1061-4, 1993 |
| 4 | 林原利朗。クロレラ錠による中毒疹で紅皮症となった成人アトピー性皮膚炎の1例。日本皮会誌。103: 419, 1993 |
| 5 | 出口英樹ほか。漢方・民間療法により紅皮症化したアトピー性皮膚炎3例。アレルギーの臨床。14: 625-8, 1994 |
| 6 | 村主明彦、ほか。漢方薬による増悪が疑われたアトピー性皮膚炎の一例。日東洋医誌。30:55-7, 1994 |
| 7 | 岩田力。漢方製剤によると思われるぼうこう炎の一例。日本病院薬剤師会雑誌。15: 705-9,1995 |
| 8 | 中西孝文。脱ステロイド後に急激な皮疹の悪化を生じたがグリテール調合ステロイド外用剤とソフトレーザーの併用で加療し軽快したアトピー性皮膚炎の1例。アレルギーの臨床。近藤宏樹ほか。民間療法による不適切な食物制限のため Kwashiorkorを来たしたアトピー性皮膚炎の乳児。日小児会誌。100；375, 1996 |
| 9 | 丹野仁ほか。民間療法の落とし穴。頼り過ぎてアトピー性皮膚炎悪化の症例。アレルギーの領域。3:905-7, 1996 |
| 10 | 東属彦。アトピー性皮膚炎の治療に用いた外用剤による接触皮膚炎。日皮会誌。106: 1805, 1996 |
| 11 | 越田繁樹ほか。漢方薬によると思われる蛋白尿の1例。日本小児腎臓病学会雑誌。10：42-5, 1997 |
| 12 | 大沼すみほか。クロレラによる中毒疹の2例。臨床皮膚。51：1109-1112, 1997 |
| 13 | 篠田勤ほか。エステティックによる民間療法施行中に重症感染症を合併したアトピー性皮膚炎の1例。皮膚臨床。39: 615-8, 1997 |
| 14 | 帯金克行ほか。アトピー制限食によるビタミンD欠乏症くる病の1例。旭川市立病院医誌。29: 45-48, 1997 |
| 15 | 三宅健。ゼラチン菓子（ミグキャンデー）を摂取して症状の悪化を認めたアトピー性皮膚炎の1例。アレルギーの臨床。17: 856-8, 1997 |
| 16 | 田中敬雄。急速な腎機能低下をきたした民間療法による Chinese herbes nephropathy。日本腎臓学会誌。39: 794-7, 1997 |
| 17 | 越田繁樹ほか。漢方薬によると思われる蛋白尿の1例。日本小児腎臓病学会誌。10；42-5, 1997伊丹儀友ほか。漢方薬の関与が疑われた急性間質性腎炎の1女児例。日本小児腎臓病学会誌。17：44-6, 1997 |
| 18 | 野田剛弘、ほか。黄ぎによる薬疹の一例。和漢医薬学雑誌。15:460-1,1998 |
| 19 | 野田剛弘、ほか。黄ぎによる薬疹の一例。和漢医薬学雑誌。甘草により偽アルドステロン症をきたしたアトピー性皮膚炎の1例。皮膚。40:531-2,1998 |
| 20 | 井本恭子ほか。甘草により偽アルドステロン症をきたしたアトピー性皮膚炎の一例。皮膚。40：531-532、1998。 |
| 21 | 高島義嗣、ほか。姉妹で Chinese herbes nephropathy(CHN)を発症した2例。日本腎臓学会誌。40: 431, 1998 |

| | |
|----|--|
| 22 | 長澤康行ほか。血液導入に至ったChinese Herbs Nephropathyの一例。大阪透析研究会会誌。16: 183-186, 1998 |
| 23 | 向井秀樹ほか。外用剤が悪化要因であるアトピー性皮膚炎。アレルギーの臨床。29: 123-6, 1998 |
| 24 | 縣裕篤ほか。過度の食餌制限により重度の栄養障害と皮膚炎をきたしたアトピー性皮膚炎の乳児例。アレルギーの臨床。18, 542-, 1998 |
| 25 | 笹本和広ほか。アトピー性皮膚炎患児に過度の食物制限を行い体重増加不良,運動発達遅延をきたした1乳児例 ビタミンB1欠乏からの検討。61, 1355-8, 1998 |
| 26 | 前田康司ほか。腎不全に至ったChinese herbs nephropathy。日本腎臓病学会誌。40;431,1998 |
| 27 | 西きみこ、ほか。A case of allergic and photoallergic contact dermatitis due to chinese topical drugs。Environ Dermatol。5: 130-134, 1998 |
| 28 | 前田康司ほか。腎不全に至ったChinese herbes nephropathy(CHN)の一腎生検症例。日本腎臓学会誌。40: 431, 1998 |
| 29 | 小尾真理子ほか。シジュウム茶入浴により増悪したアトピー性皮膚炎。日皮会誌。109: 661, 1999 |
| 30 | 杉浦真理子ほか。ステロイド離脱療法と除去食療法により症状が悪化した妊婦アトピー性皮膚炎の1例。皮膚。41: 97-101, 1999 |
| 31 | 幸田衛。Streptococcal toxic shock syndromeにて死亡したアトピー性皮膚炎成人例。皮膚臨床。41: 315-318, 1999 |
| 32 | Kato Y,1 et al 。Two cases of contact dermatitis due to propolis. Patch testing with fragrances detected in propolis by GC-MS。Environ Dermatol 。6:231-6, 1999 |
| 33 | 寺田明彦ほか。低蛋白血症を呈した乳児アトピー性皮膚炎の検討。日本小児アレルギー学会誌。13, 38-42, 1999 |
| 34 | 高橋美千代。重症アトピー性皮膚炎の検討 民間療法、不適切治療により合併症を併発したり悪化を来たした症例。県立新発田病院医誌。5: 24-31, 1999 |
| 35 | 矢野良嗣,ほか。漢方薬による薬剤性肝障害の一例。佐世保市立総合病院紀要。25:95-8, 1999 |
| 36 | 三谷てるみ ほか。太乙膏でアレルギー性皮膚炎を生じたアトピー性皮膚炎の1例。日香粧品会誌。23:232,1999 |
| 37 | 武富功雄。アトピービジネス療法により増悪したアトピー性皮膚炎の1例。西日本皮膚。62: 553, 2000 |
| 38 | 竹谷徳雄。治頭瘡一方にて薬剤性肝障害をきたした乳児アトピー性皮膚炎の一例。日本東洋医学雑誌。50;131,2000 |
| 39 | Uejima E,et al。個人的に輸入した伝統的な漢方薬（煎薬）使用の危険性。臨床薬理。31:693-9, 2000 |
| 40 | 大沢正彦ほか。アレルギー。民間施設における食事療法で栄養失調となり死亡したアトピー性皮膚炎の一例。49: 251, 2000。 |
| 41 | 大橋正博。脳梗塞を来した重症アトピー性皮膚炎の乳児例。アレルギーの臨床。20:77-81, 2000。 |
| 42 | 斉藤善朗ほか。DHA.EPA含有栄養補助食品の中止により皮膚症状が軽快した二例。小児科臨床。54:48-50,2001 |

| | |
|----|---|
| 43 | 山本光章ほか。アトピー性皮膚炎に対する制限食で発症したビタミンD欠乏性くる病の1例。日本小児科学会雑誌。105；158,2001 |
| 44 | 西口健ほか。民間療法でアトピー性皮膚炎の増悪を来した姉弟例。日本小児皮膚科学会誌。京田学是ほか。19:25-28, 2001 |
| 45 | 京田学是ほか。民間療法中にあるいそを呈したアトピー性皮膚炎の一例。こども医療センター医学誌。29: 109, 2001 |
| 46 | 斉藤善朗ほか。DHA.EPA含有栄養補助食品の中止により皮膚症状が軽快した二例。小児科臨床。54：48-50,2001 |
| 47 | 大林幹尚ほか。発達の遅れと成長障害を主訴に紹介となった重症アトピー性皮膚炎の2乳児例。日本小児皮膚科学会誌。105: 162, 2001 |
| 48 | 加藤保信ほか。アトピー性皮膚炎にカポジ水痘様発疹症を合併し更に横紋筋融解症に至った1例。アレルギー。52：336,2002 |
| 49 | 小倉由紀子ほか。民間療法(整体)で栄養失調症をきたした乳児重症アトピー性皮膚炎の1例。日本小児アレルギー学会誌。16：456,2002 |
| 50 | 鷺見浩史ほか。プラセンタエキスを含む健康食品の経口摂取により増悪をみた成人型アトピー性皮膚炎の1例。皮膚。43(Suppl.23)53-57, 2001 |
| 51 | 柴田瑠美子ほか。不適切除去食,アトピービジネスにより発育障害をきたしたアトピー性皮膚炎乳児の2例。アレルギーの臨床。22, 634-637,2002 |
| 52 | 里村憲一ほか。副甲状腺 ビタミンD欠乏性くる病の3例。ホルモンと臨床。50増刊 92-6, 2002 |
| 53 | 吉富友美ほか。除去食中にケトン性低血糖症を発症したアトピー性皮膚炎の2例。日本小児科学会雑誌。106:935, 2002 |
| 54 | 田村耕成ほか。日温気物医誌。長期にわたる長時間の入浴により偽性Bartter症候群および偽性副甲状腺機能低下症を生じたアトピー性皮膚炎の一例65: 195-8,2002 |
| 55 | 中條綾ほか。中国直輸入の漢方製剤により副腎機能制御を来した7歳男児例。小児科臨床。55:1481-4, 2002 |
| 56 | 竹原和彦。先端医学社1998, 東京、著者竹原和彦。アトピービジネス私論。84頁 |
| 57 | 竹原和彦。先端医学社2000, 東京、著者竹原和彦。続アトピービジネス私論。102頁 |
| 58 | 黒田直人、丹野高三、三戸聖也、北武、牧野容子。カポジ水痘様発疹症が死因に関与したと考えられた乳児死亡例。法医学の実際と研究。45：129-134、2002 |
| 59 | 檜澤孝之、吉田直美、古林利治、ほか。皮膚炎の増悪に伴い著明な低栄養、体重減少、電解質異常をいたした乳児アトピー性皮膚炎の5例。日本小児皮膚科学会雑誌、22(2)：149、2003 |
| 60 | 神山一行、江隅英作、小島 進。オゾン療法後に発症したreversible posterior leukocephalopathy syndrome。神経内科、63(1)：87-91、2005 |
| 61 | 鈴木保志朗、吉原 康、小泉 沢、草刈倫子、藤江弘美、鈴木 潤、渡辺信雄。健康食品による民間療法で低栄養となり、発育障害を伴ったアトピー性皮膚炎の1乳児例。小児科臨床、57、1149、2004 |
| 62 | 内野由美子、渡辺美砂、佐藤真理、小原 明、佐地 勉、月本一郎。低身長を主訴に受診したIgE高値の重症アトピー性皮膚炎2症例。アレルギー学会誌：526、2004 |
| 63 | 岡松千都子、渡辺美砂、直井和之、徳山美香、月本一郎。漢方薬に依存し体重増加不良、発達遅延、低ナトリウム血症を呈したアトピー性皮膚炎の乳児例。アレルギー学会誌、527、2004 |

